

〔三代實錄清和〕七貞觀十二年二月十九日辛丑、參議從三位春澄朝臣善繩薨。中善繩性周慎謹朴。中

略 有子男女四人具瞻兼永並爵至五品然无繼家風者。長女治子爲正四位下典侍。

〔本朝世紀〕康和五年十二月廿日乙丑、正四位下行木工頭兼丹波守高階朝臣爲章卒、爲章者入道備

中守正四位下爲家第一子。中六年治十一月八日出爲加賀守、七年八月廿八日親父近江守爲

家朝臣坐凌轢春日神民事、除名配流、爲章依爲長男。可有緣坐、然而依臨時之恩不坐、四男阿波守爲

遠一人停見任、非常斷專、人主之義也、嘉保二年十二月兼木工頭。

〔醒睡笑七〕思の色を外にいふ。總領の二十にもあまれど終によめをむかふる噂もなきあり。

〔榮花物語根合〕三十六皇后宮歌合せさせ給。中左の方人左大臣通教殿通頼右の方人にてものし給

右のおほとの宗頼さだめ給左のおほとのおはします、かすさしは俊家の二位中納言の二、太郎

後宗二郎兼師二人ながらびづらゆひておはす。

〔空穂物語藤原の君〕むかし藤原の君ときこゆる一世の源氏おはしましけり。中きさいの宮、三

條大宮のほどに、四丁にていかめしき宮あり。中こゝにうつり給て、ひとかたには大井殿の御

むすめ、おとゞまちは宮すみ給ほどに、おほんこどもうみ給、ことかすあまたになりぬ、大井殿

のおとこよところ、女いつところに、宮の御はらに十五さいよりうみ給おとこやとところ、女九と

ころ、まづ宮おほい君、太郎、次郎、三郎、四郎、とりつゞきうみ給ふ、大殿の御方五郎、六郎とうみたま

ふ、宮七郎、八郎とうみたまふ、大井殿に中の君、三の君、四君、宮五六七八九十さしならびにうみ給

へり、又おほいどのに、十一、十二の君、宮十三、十四のきみ、又さしつゞき、おなじ年のおとこきみふ

たところながらうみ給、かたみからみおはしましなどすれど、御申うるはしくきよらなる事

かぎりなし。中かくて太郎君左大弁たゞすみ年三十、次郎ひやうへのすけもろすみ年廿九、こ

れ二人ながら宰相なり、三郎右近の中將藏人のとうすけすみ年廿八、四郎右衛門佐つらすみ年

太郎  
次郎